

南浦和中だより

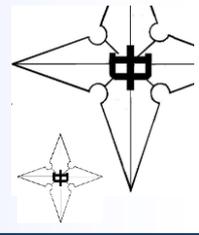
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

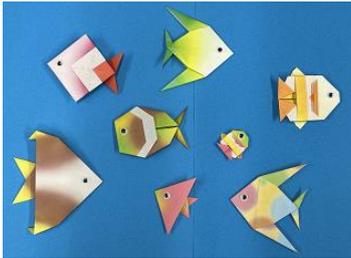
FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



『青い珊瑚礁』

校長 おお ころ うち のり かず 大河内 範一

20年ほど前、当時の職場の仲間と「スキューバダイビング」のライセンスを取得した。学科講習、プール実習、海洋実習などを順番にクリアしていけば、ライセンスを手に入れることが可能なので、その気があれば、海の中で人魚のように華麗に泳ぎ回ることができるのである。

海洋実習の会場は、晩冬の伊豆の海だった。人生で初めての水深のある海の中、どんな世界が待っているのだろうかと期待に胸を膨らませて潜ってみたものの、そこで見たものは、茶色く濁った視界の悪い海水、極めて地味な色彩の小魚やイカの赤ちゃん・・・。自分が思い描いていた世界からは、ほど遠かった。

しかしながら、たった一度だけだが、本場の海に潜りに行ったことがある。セブ島の海中はまさしく映像で見た世界だった。右を見ても左を見てもどこまでも透き通っている青い海、不思議な形状や美しい色彩の珊瑚礁、映画の「ニモ」でも登場するカクレマノミを代表とする色とりどりの熱帯魚。そこは神秘的で風光明媚な楽園であった。あのシチュエーションで、人魚姫のアリエルが私の隣に寄って来て、一緒に泳いでくれたとしたら、きっと恋に落ちていると自信をもって言える。

1本目と2本目のダイビングの間は、インターバルを取らないといけない。タンク内の空気に含まれている窒素を、過剰に体内に取り込んでしまっているのだから、それを排出するためだ。その間は、ビーチチェアにゴロリと横になり、白い砂浜や海の波をのんびりと眺めていた。これ以上ない贅沢な時間を味わうことができた。

このような素敵なアクティビティと出会ったのだが、スキューバが自分に合わないと感じた出来事があった。水圧の関係からか、海に潜った後の数日間、耳がよく聴こえなくなってしまうのである。ずっと「ほわ～ん、ほわ～ん」という音が聴こえ続け、日常生活に支障が出てしまうので、それ以来、なんとなくスキューバの世界から遠のいてしまって、今に至っている。

さて、パリのセーヌ川の水質問題は、ちょっとしたニュースになっていたが、現在、海洋汚染をはじめとして、環境にまつわる問題が深刻化している。環境を守っていくためには、しっかりと関心をもち、自分たちに何ができるのかを考えて行動していかなければならない。今ではスキューバのルールから器材の名称まですっかり忘れ、私の「人魚人生」は思い出の彼方に行ってしまったが、かつて海のよさを味わったダイバーの端くれとして、美しい自然を失うわけにはいかないと強く思っている。

2学期がスタートする。生徒の皆さんは、興味関心があることには積極的に挑戦し、周囲の環境にも気を配りつつ、楽しく充実した学校生活を送ってほしい。